

令和5年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（明徳幼稚園）

教育目標

心豊かに 生き生きと たくましく しなやかな心をもつ
子どもを育む ～自ら学ぶ力、自ら律する力の育成～

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 豊かな心を育む環境や教師の援助など、年間を通して工夫していくことで、年度末になり様々な生活や行事から、自らの思いを表現する子ども、自ら目当てをもってやり切ろうとする心、友達と協同的になり遂げようとする子どもたちの育ちが見られた。次年度は、さらに一人一人の育ち、集団としての育ちにつながるよう、また、幼稚園の教育を幼小の育ちをつなぐ視点で、小学校や地域に発信できるように工夫していきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・幼稚園の教育の大切さを知らせる工夫を地域としても協力していきたい。 発信方法などできることがあれば協力したい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月27日	学校運営協議会
最終評価	3月12日	学校運営協議会

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・園庭に、ごっこ遊びを通して友達や異年齢のつながりや対話が生まれるような環境をつくる。
- ・子どもたちが思わずやってみたくなる環境や様々な動きを引き出せるような環境をつくったり、教師も一緒に遊ぶ中で体を動かして遊ぶ楽しさや気持ち良さに共感したりする。
- ・明徳小学校と授業参観や保育参観、子ども・教職員同士の交流の機会を設け、“対話”という共通のキーワードをもとに話し合うことで、育ちの共有や接続を図っていく。
- ・試したり工夫したりして遊べるように、材料や用具の量を豊富に用意したり、ドキュメンテーション等で共有し、試しが広がっていくようにしたりする。
- ・異年齢での活動を継続的に取り入れ、言葉で伝えたり、相手に伝わる伝え方を考えたりする経験が積み重なっていくようにする。
- ・一人一人のありのままの表現を認めたり、クラスで取り上げ、友達の表現の良さに気付けるような機会をもったりすることで自信につながっていくようにする。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 日々の子どもの姿についての情報共有、記録、事例研究による子どもの変容、週案の反省・評価、教育課程の見直し
- アンケート項目「子どもは、自分でしたい遊びを見つけて楽しんでいる」「子どもは、園内の自然環境を遊びに取り入れて楽しんでいる」

中間評価

各種指標結果

- アンケート項目、「子どもは自分の思いを素直に出そうとしている」「子どもは友達と関わりながら遊ぶことが好きである。」に関しては、どちらも、各学年「そう思う」「大体そう思う」を合わせると、97%、100%になるという高い数値であった。

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・年度当初より、園内研究のテーマ“つながり”、“対話”に迫るような保育計画を考え、実践するとともに、その土台となる自分の思いを安心して素直に出せることを大切にし、人的、物的環境にも配慮してきた。アンケート結果から伺える。

分析を踏まえた取組の改善

- ・今後も、これから季節に応じた環境や、子どもの育ちにつながるような環境構成や援助を見直していきたい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・園内研究会での事例研究
- ・アンケート項目
- ・週案の評価

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・今年度は、コロナが5類になったことで、いろいろな行事もやりやすくなったのではないか。戻すということだけでなく、新しいやり方も取り入れつつ充実させていってほしい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- アンケート項目、「子どもは喜んで幼稚園に通っている」「子どもは自分の思いを素直に出そうとしている」「子どもは友達と関わりながら遊ぶことが好きである。」に関しては、どちらも、各学年「そう思う」「大体そう思う」を合わせると、100%、97%、100%になるという高い数値であった。

自己評価

分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・園内研究のテーマ“つながり”、“対話”について、保育の中では常に工夫し実践してきた。年長、年少のペアでの取り組み、友達同士をつなぐ教師の援助など、意識的に取り組んできたことが子どもの育ちとして成果としてあがってきている。関わりの中で自信をもって自分を素直に表現できるようになってきている。次年度はさらに、人的、物的環境にも配慮していきたい。

分析を踏まえた取組の改善

- 今年度は新しい教材や遊具を使いこなすまでには一定の期間が必要であることがわかったことから、次年度も計画的に人的、物的環境を工夫していきたい。

学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園は教材が豊富で、工夫がみられる様々な環境があると思う。地域の素材で活かせるものがあれば協力したい。
-----------------------------	---

(2) 架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続に関して

具体的な取組	<p>・“対話”を幼小の共通の視点として、互いの保育や授業を見合い、協議を深めていく。</p> <p>・年長組と1年生との交流をする中で、教師同士の事前や事後の話し合いをする機会を設け、互いの教育について理解を深める。</p> <p>・架け橋期のカリキュラム作成に向けて、協議・検討していく。</p>
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 近隣の小学校へ発信した幼稚園通信での反応、小学校の授業参観・研究授業の参観 ○ 架け橋プログラムでの協議 ○ 架け橋期のカリキュラムの作成についての進捗状況 ○ 読書ノート「親子で絵本！」の活用度を定期的に点検、把握、改善

中間評価

各種指標結果	<p>・幼稚園通信を1学期は3回発行した。卒園児の保護者から楽しみにして読んでいる間声があった。</p> <p>・小学校への休日参観、夏季休業中の合同研修会、研究授業の参観、研究協議への参加等、保育公開と合同研修など計画的にすることができた。</p> <p>・アンケート「読書ノートは様々な機会に利用している」の結果は、「そう思う」「大体そう思う」を合わせると、76%となる。</p>
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校の教員との研修機会が複数回設けられたことは、コロナ以前と比較しても連携が進み、互いの教育を理解する機会となった。しかし、更に架け橋の役割として幼児教育の在り方を発信していくことは必要である。 アンケート「読書ノートは様々な機会に利用している」については、おおむね良好だと思われるが、より親子での読み聞かせの大切さを伝えていきたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究保育、授業以外でも園児、児童の交流を通して互いを知る機会を作るために、計画をしていく必要がある。他の幼児教育施設への発信は課題である。 読書ノートについては、計画的に確認する機会をもける。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>授業、保育の参観、研究会への参加、交流計画、アンケート項目“小学校との連携” “読書ノートの活用”について。</p>

学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小の交流活動は、大切だと思うので積極的に進めてほしい。 ・幼稚園教育施設の連携はどのようにすれば可能なのか、小学校と連携しながら進めていってほしい。
-----------------------------	--

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園通信を2学期は発行できなかった。 ・架け橋プログラムでの公開保育、小学校の研究授業、研究協議会への参加、小学校の半日入学について参画することができた。 ・年長児と1年生の給食交流、授業交流が実施できた。 ・アンケート「子どもに読聞かせをすることは大切なことだと思う」は「そう思う」「大体そう思う」を合わせると100%、読書ノートは様々な機会に利用しているの結果は、「そう思う」「大体そう思う」を合わせると、67.5%となる。
--	---

	<p>自己評価</p> <p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は小学校教員とともに研究保育、研究授業後の研究協議ができたこと、そこで幼稚園の保育について、また小学校の授業を幼稚園の教員の視点で話ができることが大きな成果である。 ・近隣の私立幼稚園、保育園とつながりができ、また、交流保育を実施することができた。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小で架け橋期のカリキュラム作成に向けての取組を推進する。 ・公立幼稚園として、地域の就学前施設とつながり架け橋プログラムに貢献していきたい。 ・読み聞かせの大切さを感じているにもかかわらず読書ノートの利用率の低さが気にかかる。親子で読書をして、その足跡を残すことの意義を伝えていきたい。
--	---

	<p>学校 関 係 者 評 価</p> <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は教員の合同研修や子どもたちの交流ができたことをうれしく思う。幼小の架け橋プログラムをしっかりと推進していってほしい。 ・読書ノートはもう少し簡単なものになればいいのではないか。
--	--

(3) 預かり保育について

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児3歳児クラスの子どもについて、安心感が持てるよう、子育て支援、預かり保育両担当の引き継ぎ時の連携を密に図る。 ・担任と預かり保育担当教員が心身の状態について引継ぎ、緊密に連携をとる。 ・時期や季節に応じた玩具や遊びの環境を整え、子どもが安心して、ゆったりとした気持ちで充実して過ごすことができるようとする。 ・早朝預かり保育での環境構成の在り方について担当教員と連携しながら充実を図っていく。また制度の地域への周知を図る。 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <p>○預かり保育参加人数</p>
--	---

○預かり保育の中での子どもの姿や教師のかかわり。

○アンケート項目「子どもは預かり保育に喜んで参加している」「子どもは預かり保育の遊びを楽しんでいる」「預かり保育は保護者にとって有効である」など

中間評価

各種指標結果

- ・今年度から始まった未就園児3歳児対象の預かり保育は、年度当初より就労の保護者の利用があり、4歳児の利用割合も増加している。
- ・アンケート項目「子どもは預かり保育に喜んで参加している」は、「そう思う」「大体そう思う」を合わせると79%「早朝および保育後の預かり保育は保護者にとって有用である」は、「そう思う」「大体そう思う」を合わせると、100%であった。

自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none">・園児に対する利用割合は、昨年度より伸びている。有效地に活用されているのではないか。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none">・預かり保育時の活動内容や子どもの様子についての子どもが安心して預かり保育に臨めるように、担任と担当教員の連携をより密に図る必要がある。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none">・預かり保育利用割合・預かり保育の中での子どもの姿や教師のかかわり。・アンケート項目「子どもは預かり保育に喜んで参加している」など
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none">・預かり保育は3歳児の親も利用しているなど、幼稚園の制度は社会に合わせて変わってきたことを感じる。公立幼稚園の役割は変わっていることを感じる。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・4歳児の利用率が高い。未就園児3歳児も保護者にとっては子育て支援、就労支援の側面で有効である。
- ・アンケート項目「子どもは預かり保育に喜んで参加している」は、「そう思う」「大体そう思う」を合わせると83.1%「早朝および保育後の預かり保育は保護者にとって有用である」は、「そう思う」「大体そう思う」を合わせると、100%であった。

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none">・未就園児3歳児の利用は増加しているが、長時間の保育では子どもが不安定になることもあるため、担当教員との連携が特に大切である。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none">・特に未就園児3歳児については、預かり保育担当教員との密な連携をして安心して利用できるようすることが必要である。・預かり保育での活動内容の工夫や関わり方など、担当教員の質の向上に向けた研修の機会を設ける。

学校関係者による意見・支援策

- ・未就園児3歳児も利用者が増加してきているのは今の保護者のニーズが感じられる。
幼稚園としては大変だと思うが頑張ってほしい。

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組

- ・未就園児3歳児、1～2歳児それぞれのクラスの内容や回数の見直し、充実していく。
- ・未就園児クラスと在園児クラスとの交流の機会をもち、園の教育への理解や発信につなげる。
- ・異学年の交流を大切にし、安心して過ごしたり、刺激をもらったりしながら生活や遊びが充実できるようする。
- ・保護者の子育てに対する不安や悩みなどを丁寧に受け止め、共に具体策を考え、保護者の安心につなげる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 子育て支援事業への登録、参加人数の推移。
- 子育て支援の取り組みの回数や参加人数、教育相談件数。
- 保護者の意見。

中間評価

各種指標結果

- ・今年度の0～2歳児親子クラスは、昨年度よりも回数を増やすことにいたが、参加人数は昨年度より微減であった。登録者数は減少傾向である。

分析（成果と課題）

- ・プレひよこ組（次年度3歳児クラス）については、対象者が減少している。発信の仕方や内容を検討する必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

- ・取り組みの発信方法では広報、配架個所の見直し、内容については、新たな魅力ある取り組みを考える。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

登録人数、参加人数、保護者の声等

学校関係者による意見・支援策

- ・地域に小さい子どもが減少してるのでないか。コロナや少子化の影響ではないか。チラシやポスター、今年度からは地域回覧板で発信の協力をていきたい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

新規の登録があったことで、登録人数は若干増加したが、年度当初の登録者で他の施設に行ったためか、参加しなくなった方がある。

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・回数を見直したことで、児童館など他施設と併用しやすくなったと思われる。 ・園児との交流の機会がもてなかつた。 ・保護者の声により、ホームページでのお知らせを、以前より詳細な情報を提供するように改善した。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は計画的に園児との交流機会を持ち本園の教育への理解を深めたい。

（5）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）について

	具体的な取組
	<ul style="list-style-type: none"> ・畠の先生に栽培物の植え方や育て方を教えてもらったり、岩倉地域自然アドバイザーに地域の生き物について教えてもらったりすることを通して、自然に関心をもてるようになるとともに、地域の方とつながる喜びを感じられるようにする。 ・学校運営協議会「どんぐりーず」、PTA、おやじの会と連携し、保育の充実に生かす。
	(取組結果を検証する) 各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ○地域との交流の内容や回数。運営協議会理事、PTA、地域の方の意見 ○京都岩倉自然学習アドバイザーのお力による取り組みの充実と、子どもの変容、研究の充実。 ○アンケート項目「学校運営協議会「どんぐりーず」と参画する行事は子どもたちにとって良い経験となっている」「学校運営協議会「どんぐりーず」に子どもたちも親しみをもっている。」など

中間評価

自己評価	各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・園児対象の地域との交流は今年度も見合せのままである。 ・コロナが5類になった後の学校運営協議会の理事による園行事への参画はしやすくなつた。 ・PTA行事（夏祭り）が復活、充実し、その中でおやじの会の参画も積極的である。
	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会理事のご協力による行事の実施は、田んぼ遊びやお茶会がコロナ5類移行後なので人数を分ける必要がなくなり、園と理事の方の調整がしやすくなつた。 ・PTA行事、おやじの会の行事は復活しているが、負担感なくできる方法を検討していく。
	分析を踏まえた取組の改善
	地域との交流の内容や回数。運営協議会理事、PTA、おやじの会、地域の方の意見
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目「学校運営協議会「どんぐりーず」と参画する行事は子どもたちにとって良い経験となっている」など

学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>PTA、おやじの会などの活動は負担感なく無理なくできるものに引き続き検討していくといつてほしい。</p>
-----------------------------	--

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の理事の方の関係で、栽培関連では地域に方に大変お世話になった。畑の先生として子どもたちに大変親しみをもっていた。 ・お茶会でも例年同様、学校運営協議会の理事のかたにお世話になり、今年度はコロナ感染対策を考えずに実施できたので、スムーズに運営できた。 ・PTAやおやじの会はPTA行事の運営や園行事への協力があった。
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTAやおやじの会の園への協力により、園行事は保護者もやりがいや楽しさを感じる機会となっていた。 ・学校運営協議会の理事の方のご協力は大きな力となっていた。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度もPTAやおやじの会の活動については、負担なくやりがいを感じてもらえるようにしていきたい。 ・学校運営協議会の理事の方には次年度もお力をいただき運営していきたい。

学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度はコロナが5類になり、幼稚園とのかかわりが積極的にできるようになったので、次年度につないでいきたい。
-----------------------------	---

(6) 教職員の働き方改革について

	<p>重点目標</p> <p>○教職員の業務内容・勤務時間を意識し、改善点を明らかにし、教職員の連携を密に図り、校務支援員を有効活用しながら、働き方改革を推進する。</p>
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員全体での連携の元、校務支援員を活用しながら仕事の効率化を図り、働き方改革を推進し、教育の充実、教職員の健康保持増進を図る。 ・会議の精選・効率化、ペーパーレス化、行事の内容や業務の分担の見直しと効率化、超過勤務の短縮。 ・電話対応時間を18時までとする。 ・水曜日をノー残業デーに設定し、実現する。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <p>○校務支援員を初めとする教職員間の連携により改善できた業務内容。</p> <p>○教職員の超過勤務時間の実態把握や年休取得率。</p>

中間評価

自己評価	各種指標結果				
	<ul style="list-style-type: none">・校務支援員をかなり効率よく活用できている。・年休所得率は夏季休業中でも職種によってばらつきがある。・多忙な中、ノー残業デーが形骸化している				
	<table border="1"><tr><td>分析（成果と課題）</td></tr><tr><td><ul style="list-style-type: none">・コロナ5類移行後は、行事や出張が復活し、超過勤務が増加傾向にある。</td></tr></table>	分析（成果と課題）	<ul style="list-style-type: none">・コロナ5類移行後は、行事や出張が復活し、超過勤務が増加傾向にある。		
分析（成果と課題）					
<ul style="list-style-type: none">・コロナ5類移行後は、行事や出張が復活し、超過勤務が増加傾向にある。					
学校関係者評価	<table border="1"><tr><td>分析を踏まえた取組の改善</td></tr><tr><td><ul style="list-style-type: none">・校務支援員とさらなる連携により、業務の効率化を図る。・ノー残業デーの意識化を図る。</td></tr><tr><td>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</td></tr><tr><td><ul style="list-style-type: none">・校務支援員の活用により改善できた業務内容。・ノー残業デーの実行・教職員の勤務時間の実態把握や年休取得率。</td></tr></table>	分析を踏まえた取組の改善	<ul style="list-style-type: none">・校務支援員とさらなる連携により、業務の効率化を図る。・ノー残業デーの意識化を図る。	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	<ul style="list-style-type: none">・校務支援員の活用により改善できた業務内容。・ノー残業デーの実行・教職員の勤務時間の実態把握や年休取得率。
分析を踏まえた取組の改善					
<ul style="list-style-type: none">・校務支援員とさらなる連携により、業務の効率化を図る。・ノー残業デーの意識化を図る。					
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標					
<ul style="list-style-type: none">・校務支援員の活用により改善できた業務内容。・ノー残業デーの実行・教職員の勤務時間の実態把握や年休取得率。					

最終評価

自己評価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果		
	<ul style="list-style-type: none">・校務支援員の力により、教員の業務はかなり削減されてきた。・ノー残業デー（水曜日）が実施しにくい。・2学期は行事が多く多忙な時期があった。しかし管理職以外の超過勤務は減少していると思われる。		
	<table border="1"><tr><td>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</td></tr><tr><td><ul style="list-style-type: none">・校務支援員の協力による業務改善はかなり有効になっている。・コロナが明け管理職の出張が多くなり、その分園業務が滞ることが多かった。・管理職の業務をどのように効率よくしていくのかが課題である。</td></tr></table>	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題	<ul style="list-style-type: none">・校務支援員の協力による業務改善はかなり有効になっている。・コロナが明け管理職の出張が多くなり、その分園業務が滞ることが多かった。・管理職の業務をどのように効率よくしていくのかが課題である。
分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題			
<ul style="list-style-type: none">・校務支援員の協力による業務改善はかなり有効になっている。・コロナが明け管理職の出張が多くなり、その分園業務が滞ることが多かった。・管理職の業務をどのように効率よくしていくのかが課題である。			
学校関係者評価	<table border="1"><tr><td>分析を踏まえた取組の改善</td></tr><tr><td><ul style="list-style-type: none">・意識改革とノー残業デーの実施</td></tr></table>	分析を踏まえた取組の改善	<ul style="list-style-type: none">・意識改革とノー残業デーの実施
分析を踏まえた取組の改善			
<ul style="list-style-type: none">・意識改革とノー残業デーの実施			